

氏名	今井 優美
学位の種類	修士 (看護学)
学位記番号	修士 第 176 号
学位授与年月日	平成26年3月10日
学位論文題目	看護師のメタ認知能力と看護実践能力が職業継続に及ぼす影響

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	181	(ふりがな) 氏 名	いまい ゆみ 今井 優美
修士論文題目	看護師のメタ認知能力と看護実践能力が職業継続に及ぼす影響		
<p>【目的】 看護師のメタ認知能力と看護実践能力が職業継続にどのような影響をもたらすのかその関係を明らかにする。</p> <p>【方法】 関西圏における300床以上の病院155施設のうち、同意の得られた施設の看護師1894名に調査票を配布した。回収は郵送法とし、回答の郵送をもって同意を得たこととした。 調査内容：基本属性と「成人用メタ認知尺度」（阿部ら，2010）、「批判的思考態度尺度」（平山ら，2004）、「看護婦の自律性測定尺度」（菊池ら，1997）の3つの尺度を使用して構成した。 データ分析：基本属性は、記述統計を算出した。尺度間の相関関係はSpearmanの順位相関係数を算出した。 成人用メタ認知尺度の得点を、低得点群と高得点群の2群に分け、各変数間の関連をみるためにクロス集計を行い、離散量はχ^2検定、連続量はt検定を行った。各尺度の合計点および下位項目得点による、2変量の中央値の差の検定にはMann-WhitneyのU検定、3変量以上の検定には、Kruskal-Wallis検定を行った。Kruskal-Wallis検定で有意差のみられたものは、多重比較を行った。 メタ認知能力への影響要因については、ロジスティック回帰分析を行った。 データの分析には、統計解析パッケージソフトSPSS 22.0を使用した。</p> <p>【結果】 調査票の回収数は919名（回収率48.5%）、最終有効回答の842名（有効回答率91.6%）を分析の対象とした。 メタ認知の下位尺度と看護婦の自律性下位尺度の間に相関がみられた。また、メタ認知の合計点または下位尺度の得点において、年齢、結婚、子どもの有無、資格、一般学歴、看護師経験年数、病院勤務年数、職位、職場での役割、所属施設、看護モデルの有無、メンターの有無、職業継続意思の程度との間に有意差がみられた。ロジスティック回帰分析においては、メタ認知の高得点群に資格、看護師経験年数、看護婦の自律性尺度の下位尺度である認知能力、実践能力、自立的判断能力が有意に影響を与えていた。</p> <p>【考察】 看護師のメタ認知に応じた教育・支援を行うことで、看護師のメタ認知能力が向上する可能性が考えられる。看護師のメタ認知を向上するためには、資格取得の機会や支援を行なうこと、熟練者となればなるほど、習慣化された行動を客観視し、自己をコントロールする必要性が生じること、看護師の自律性を高める働きかけをおこなうことが必要である。その結果、看護実践能力が高まり、職業継続意性が維持されると考えられる。</p> <p>【総括】 本研究では、看護師のメタ認知が向上することで、看護師の自律性が高くなり、結果として職業継続意思が高くなることが示唆された。看護師のメタ認知能力を向上する教育方法の構築や看護師の離職予防に繋げることができるのではないかと考える。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。